

上北鉱山軌道車（ガソリンカー）等の歴史

高砂 和男

昭和 11 年 三井系列の高森鉱山がガソリンカーを 1 台所有していた。同年、三井より日鉱へ経営を委託し、上北鉱山が開山。3 日に一度、10 台位の鉱石車を高森鉱山の機関車に牽引してもらっていた。

昭和 12 年 上北鉱山でも機関車を購入。

昭和 13 年 4 月 索道ができて鉱石輸送の役目を解かれ、人員輸送用になった。

※上北鉱山(坪川)と乙供間の所要時間 2 時間(距離 32km)

昭和 22 年 機関車を 2 台購入、昭和 26 年 客車が屋根付きになった。



同型機関車と
屋根付き客車



※6 両連結、1 車両に 18 人定員。軌間 610mm。

※営林署軌道に鉱山軌道車が毎日 2 回往復していた(5 月～11 月の間)。

※冬期間は(12 月～4 月)馬籠に代わる。多いときは 60 頭が運送に供された。

※昭和 30 年 12 月 冬期の輸送に雪上車が運行。

上北～田代～横内（青森市内）間 35km を 1 時間 30 分で運行。9 人が乗車できた。

※昭和 32 年 冬期輸送の雪上車が、田代経由から乙供行きに切り替わる。

※軌道車（ガソリンカー）が廃止される。

昭和 33 年 10 月 夏期輸送に市営バスの仮運行を開始。

田代隧道口～青森駅間を 2 往復。

※昭和 34 年 7 月 夏期輸送の市営バスが開通。上北～田代～青森筒井～青森駅間 30km を 2 時間で運行。1 日 3 便。

ガソリンカーとアイス
クリーム売りおじさん



【参考文献】

上北ニュース

青森森林管理署

全国鉱山鉄道 JTB

全国森林鉄道 JTB

全員集合写真

